

平成 20 年度 JAXA 学校宇宙連詩への取り組みの報告

実施概要

学校名	倉敷市立琴浦中学校	校長名	谷田 陽平
学校所在地住所	〒711-0906 岡山県倉敷市児島下の町8-6-6 http://www.kurashiki-oky.ed.jp/school/kotoura-j/		
連絡先	:086-472-4459	Fax:086-474-0762	
	e-mail:TS3550@kurashiki-oky.ed.jp		
参加者	第1学年6学級192名	指導 教諭	竹久 学 教諭 土戸真理子教諭
参加目的	生徒が身近な生活の中から心に残る感動したことを短い言葉で詩に表現することや互いの作品を鑑賞し合うことで新たな言葉や表現の方法を身に付けることを期待した。また、詩をつなげていくことで、集団がつながり、互いにより高め合うことを期待した。		
指導目標	目標1：言葉の発想トレーニングを行うことで、表現力を高める。 目標2：ワークショップにおいて宇宙連詩への心構えを学ぶ。(JAXAへの協力を要請) 目標3：「書くこと」の学習としての宇宙連詩づくりと集団で高めあうための宇宙連詩づくり。		
具体的な取り組み内容			
実施段階 実施時期	取組内容		
準備段階 8月～	JAXA 職員と本校関係者との意見交換会を行い、参加学年の決定、指導計画の作成と準備を、本校指導教諭が、JAXA の協力を得て(職員、詩人)進めた。		
導入段階 12月	指導目標1への取り組み 対比・類似・具体・抽象・結合など語句と語句の関係を確認しながら、次の語句を引き出す取り組みを行った。 以前の宇宙連詩のキーワードを空欄にしておき、詩のつながりから、そのキーワードを連想させた。		
実施段階 12月	指導目標2への取り組み JAXA 協力(JAXA 職員の講師としての派遣)のもと、宇宙レクチャを実施。(1コマ(30分)) ワークショップ:私たちはどこから来たのか?何ものか?どこへ向かうのか?の問いに答える活動としての JAXA 等が進める宇宙活動の紹介と、ワークショップ、対話の実施		

	<p>宇宙連詩作りへの心の準備：私たちは身の回りのモノゴトと、宇宙の3つの誕生日：約137億年前の宇宙創成、約46億年前の地球誕生、約40億年前の生命誕生で繋がっている。何を書いても宇宙連詩。</p> <p>質疑応答、感想の集約</p> <p>JAXA 協力（詩人の講師としての派遣）のもと、宇宙連詩レクチャを実施。（1コマ(60分)）</p> <p>事前準備：冒頭3詩（第1詩：谷川俊太郎、第2詩：覚和歌子、第3詩：野村喜和夫）に続く、第4詩目の作成を宿題として出す。</p> <p>レクチャ：生徒に、詩作りの心構え（何について書いても詩にできる等）、連詩作りの心構え（言葉を繋ぐゲームとして捉える等）を持たせることをねらいに、講師役の野村喜和夫氏から、具体例を紹介（作品の朗読等）する形で、レクチャ頂いた。</p> <p>ワークショップ：生徒に、詩作り、連詩作りの心構えを、体得させることを目的に、詩講師役の詩人からマンツーマンの指導を受けさせる。（生徒が、宿題として作詩してきた第4詩を朗読し、講師役の詩人がアドバイスを実施）</p> <p>質疑応答、感想の集約</p>
<p>実施段階 12～3月</p>	<p>指導目標3への取り組み</p> <p>第4詩の決定と第5詩から第10詩までの作成（国語の授業として）班で各自の詩を発表して、感想を述べ合い、班で代表の詩を決定する。次に、班の代表者は黒板に書く。他の生徒は板書を写し、それぞれの詩の感想をまとめる。</p> <p>代表者は自分の詩の朗読とどんな気持ちで書いたのかを説明する。クラスで意見交換の後、多数決で詩を決定する。次の詩は、宿題にしておく。（第10詩までこの過程の繰り返し）</p> <p>クラスの掲示物づくり</p> <p>第11詩以降について</p> <p>各クラスの国語学習係にノート、ワークシート、掲示物用の紙、クラス名簿を渡す。まだ自分の作品を残していない生徒でノートを回し連詩づくりを自主的活動として継続していった。</p>
<p>社会との繋がり</p>	
<p>宇宙レクチャ、宇宙連詩レクチャでは、地元メディア（新聞、テレビ）が取材し、レクチャの様子が報道された。</p> <p>10年経験者講習の特定課題研究で、今年度の取り組みの成果を発表。</p>	

平成 20 年度 JAXA 学校宇宙連詩への取り組みの報告
指導教諭からの報告

宇宙連詩の研究 ～つながることから成長をめざして～

倉敷市立琴浦中学校 竹久 学

宇宙連詩づくりに取り組むことは決めたものの、なぜ今の生徒に必要なのか。国語科として、なぜ取り組むのか。その定義づけに悩んだ。

そのため、逆に、新指導要領や和歌・俳句・短歌などの研修にもつながり、今後の自分にとって役立つ取り組みとなった。

伝え合い、学び合う学習を様々な授業の場面で設定しているが、「書くこと」を苦手とする生徒は多い。また、互いの発表から作品を評価し合うことに抵抗を感じる生徒もいる。これらの苦手感や抵抗感は、活動の場面設定の不足と方法に関する指導不足に起因すると考えられる。

生徒の持つ抵抗感を減らすためにも、この取り組みまでの国語教室作りが大切であった。普段の授業において、スピーチ・感想の発表・意見交換・互いに評価し合うことなどの場面設定を行い、似たような経験を繰り返すことで、まずは慣れさせ、より力を高めていくことに取り組んだ。

さらに、表現力を高めるための言葉の発想トレーニング行ったことは詩をつなげていくためだけではなく、宇宙連詩を国語の学習としての取り組みにすることにつながった。

今回、生徒たちは、宇宙連詩について学ぶことで、身近な生活の中から心に残る感動したことを短い言葉で詩に表現することや互いの作品を鑑賞し合うことで新たな言葉や表現の方法を身に付けながら連詩作りに取り組むことができた。

また、この宇宙連詩というテーマの持つ魅力を生かしながら、詩と集団がそれぞれつながることもねらっていた。互いの作品を評価して認め合うことで、詩がつながっただけでなく、クラスのつながりや国語の学習としても好影響が出た。互いに認め合う心地よい学習環境の中で、書くことに慣れ、詩を書くことが好きになった生徒が増えたことだ。「また授業で宇宙連詩に取り組みたい。」「ずっとしていきたい。」などの生徒からの声を大切にしながらこれからも指導にあたっていきたい。



平成 20 年度 JAXA 学校宇宙連詩への取り組みの報告

参加者からの報告

感想 1 (1 年生参加生徒) 私ははじめて宇宙連詩をしました。普通は人の作った詩をまねしてはいけないのに、宇宙連詩は前の詩を読んでそれに関連するものを書かなくてはならないルールでビックリしました。

宇宙連詩にはその人の気持ちが書かれていて、続けて自分の気持ちが書けるので、前の人と気持ちを共有できました。とても楽しかったです。

感想 2 (1 年生参加生徒) 私はこの宇宙連詩で、宇宙の広さや連詩のおもしろさなど国語としての学習だけでなく楽しむことができました。

クラスでつなげていった第 10 詩はクラス全員の気持ちがこもっていて、最高のものを完成させることができました。

私はこの学習を生かして、国語の学習を楽しんでいきたいです。

感想 3 (1 年生参加生徒) 私たちの作った宇宙連詩が「きぼう」に乗って地球のまわりをぐるぐると回ると回るといふことで、ドキドキしました。

はじめは何を書いたらいいかわかりませんでした。でも、やっていくうちに自分が思ったことを書けばいいことに気がつき、私の生活の一部になってきました。

前の人から伝えられたことを取り入れることができたか心配したけれど、なんとかつなぐことができました。

感想 4 (1 年生参加生徒) 最初は宇宙連詩とは何だろうと思いました。自分は詩を書くことが好きなので、たぶん詩をどんどんつなげるのだと思いました。でも、少し違っていました。詩を「自分」でつなげるのではなく、「クラスの人」とつなげる所です。少しとまどいましたが、自分なりにがんばってみました。

感想 5 (1 年生参加生徒) 宇宙連詩を書くことは、難しそうだなと感じていました。ちゃんとつなげていけるのか少し不安でしたが、思っていたよりも言葉が頭に浮かんで、すらすらと書くことができました。

慣れた頃には、読んだときのリズムを考えて推敲するようになりました。楽しみながら詩が書けてよかったです。

また、このような機会があればぜひ参加したいと思います。

感想 6 (1 年生参加生徒) みんなが前の詩から何かを受けて一生懸命詩を書いているのを見て、いつの間にか不安だった気持ちが楽しさにかわっていきま

した。

連詩を書いていく中で、いろいろな題材があったと思います。
時間、友達、夢など、宇宙から始まってこんなに広い題でつなが
っていくことに驚きました。

別紙 4

JAXA アンケートへのご協力をお願い

Q1 宇宙連詩に参加する「以前」に、「JAXA」や「きぼう」を知っていましたか？たとえば、「私は、JAXA の です」とか、「私は、『きぼう』に関係した仕事をしています」と言われたとき、ピンとききましたか？

「はい」と答えた方 21名(200名中)

Q2 宇宙連詩に参加して、JAXA や「きぼう」が、身近に感じられるようになりましたか？

「はい」と答えた方 148名(200名中)

Q3 来年も、みんなで宇宙連詩を作りたいですか？

「はい」と答えた方 124名(200名中)

Q4 その理由は何ですか？(箇条書きで結構です。)

- ・クラス全員がつながった気がしたから。
- ・言葉についてしっかりと考えるよい機会になったから。
- ・詩は書いて終わりではなく、続くものだを知ることができたから。
- ・宇宙に関わるスケールの大きさにわくわくドキドキしたから。